



きれいな学校 輝く笑顔 ～J(授業)A(挨拶)S(清掃)MI(身だしなみ)N(仲間)～

大久保中だより

〒338-0815 さいたま市桜区五関282

Tel 048-852-3554 Fax 048-840-1430

Mail Address : okubo-j@saitama-city.ed.jp

震災で学んだ「信じること」の大切さ…羽生結弦(男子フィギュア金メダリスト)

校長 新井 敬二郎

3月11日、東日本大震災が起きて3年目のあの日がやってきます。昨年度はNHKで「あまちゃん」「八重の桜」と震災地域を取り上げ、観光客も戻りつつあり、わずかながら復興の息吹が感じられます。そうした折、ソチ冬季五輪フィギュアスケート男子で金メダルを獲得した羽生結弦選手の記者会見場での発言に強く胸を打たれました。羽生選手は東日本大震災で練習拠点だったアイスリンク仙台と自宅が大きな被害を受け、避難所で過ごしたそうです。その彼が、華々しい会見場でこんな発言をしていました。「震災後スケートができなくて、本当にやめようと思った。生活することすらも精一杯の、ぎりぎりの状態。でも水や食料を供給してもらって、たくさんの方々に支えられて、こうやって今この場所にいる。だから感謝の気持ちを持っていたい」「信じられるものがなくなりつつある。今の日本には、ひょっとしたらそんな雰囲気があるかもしれません。でもやっぱり一人ひとりの持っている力を『信じること』そのものが大きな力になりました」「(金メダルを取ってもあまり笑顔がないのは)自分に、何かできたんだろうかと考えていたから。僕一人頑張っても、復興の直接の手助けにはならない。無力感さえ感じる」こんなことを言える19歳はすごい！すごすぎます。羽生選手は、震災後誓ったそうです。自分にできるのはスケートだから、選手として努力し尽くすことで人々の支えになりたいと。被災他の人々に何かを伝えるために全力を尽くしたのだから、無力感を感じるなどと言わないでください。羽生選手の気持ちは、私たちには十分すぎるほど伝わりました、ありがとう。

さて、みなさんも日本人選手の活躍に一喜一憂した人も多いのではないのでしょうか。決勝のほとんどが深夜だったため、生放送を見るために寝不足の人も…。そんな中、私が個人的に感動した場面を紹介します。

まずは、渡部暁斗選手のノルディック複合です。銀メダルの渡部選手でなく、萩原健司・次晴さん兄弟の解説に感動しました。ジャンプの成績が出切ってメダルに王手を掛けた時の松岡修造さん並みのハイテンション、そしてクロスカントリー後銀メダルが確定した時の号泣にびっくりしました。本人たちは「五輪解説は初」でしかも教え子の活躍、「すっかり興奮してしまった」と振り返っていました。解説者としても「五輪の空気に完全に飲み込まれた」と告白し、「魔物がいた」と怖さをつづっていました。教員として自分たちが教え、育ててきた選手が目の前で活躍してくれたら本職を忘れて応援してしまうのも頷けます。さらに、感動したのは上村愛子選手のモーグルです。疑惑?の4位と順位に不服もありましたが、彼女の「全部全力でできたので、満足度は高いです」

という言葉と笑顔、そして「オリンピックは本当に楽しい場所です。悔しい思いも苦しい思いもするけど、自分も成長するし、最高の場所です」という言葉に涙が出ました。フィギュアの浅田真央選手も最後の演技で最高の笑顔を見せてくれました。スポーツには、震災を乗り越え、社会を明るくする不思議な力があります。2020東京オリンピックの時に、みなさんは二十歳前半、一番いい時です。ぜひ、応援に行かせてください。

上村愛子選手と過去のオリンピック

1998 長野五輪
第7位

ただ、楽しかった大会です。

2002 ソルトレイ
クシティ五輪
第6位

メダルを取らなくちゃと意識しすぎて、プレッシャーに負けたところもありました。

2006 トリノ五輪
第5位

自分に何が足りないんだろう。

2010バンクーバー
五輪
第4位

なんで一段一段なんだろう。